

ありがとうと言える子どもを育てる

「ごめんなさい」「ありがとう」と言えるころを育む。

今月も年中組、年少組のお誕生日会の日がやってきました。私たちの園では毎月一度、誕生月の子のお父さまとお母さま方を、お招きしてお誕生日会を開いています。クラスごとにささやかな趣向を凝らしてお祝いし、手作りのカップケーキにろうそくを立てます。歌を歌ったり、パネルシアターを見たり、ゲームをしたり、祝う子も祝われる子も笑顔で、ほこほこした時間が過ぎていきます。子どもたちもお家の方々も、自分の番が来るのを心待ちにしている一日です。

クラスでのパーティーを終えると、主役の子どもたちと保護者の方々があみださまホールへ集まってきます。ホールでは年長さんがインタビュールをしてくれたり、記念写真を撮ったり、小さな合掌人形のプレゼントを渡したりするのです。あみださまの前に並べた椅子には主役の子どもたちが座り、向かい合うようにお家の方にも座っていただきます。

「どんなことでもいいので、お子さまの生まれた日のことを一言、お話ししてください」私は一番端に座るお母さまにマイクを手渡します。ちょっと戸惑ったような表情を浮かべて、でもすぐに、お母さまたちのお話が始まります。すこく痛くて…。72時間もかかったんです…。ずっと妻の背中をさすっていました…。緊急帝王切開になってしまっ…。お兄ちゃんに比べると軽なお産で…。とてもいいお天気の日だったんですよ…。10人いらっしゃれば10人が、15人ならば15人が、口々に我が子が生まれた日のことを語ってくださいます。陣痛の痛みも、うれしくて涙があふれたことも、その日の空の色まで、まるで昨日のことのように覚えていらっしやいます。

お家の人が話す間、子どもたちの顔からは目が離せません。どの子どももみな誇らしそうに照れくさそうに微笑んでいます。だれもが、自分のことを話しているのだと、はつきりわかっています。お母さんの痛みやお父さんの心配とともに自分がこの世に生まれたこと、その誕生をたくさんの方が喜んでくれたことを、もちろんほくは、わたしは覚えてはいないけれど、いのちの底の方で知っていたんだよ、とても言いたげな顔をしています。自信に満ちた美しい顔です。

親の方から眺めれば、我が子の誕生日は私が「お父さん」「お母さん」になった日。自分たちの力で身勝手に親になったわけではなく、生まれてくれた子どもによって、親にしてもらった日。さまざまなお縁のおかげで今日があることに気づき、自分もこんな風に願われて育まれてきたのだと実感した、特別な日です。あの時、この中からあふれるように湧き出した感謝は、親となった私たちへの初めての贈り物でした。

あたりまえのような親子の縁は、決してあたりまえではないのですよ。今日のいのちもまた、あたりまえではない。あみださまはそっと、私たちにお説きになります。ここからの「ありがとう」は、やさしい微笑みとともに私たちの口について生まれてきます。

教育原理委員会 武田修子

まことの保育の願い